



えしきざくら お会式桜

復刊79号

たえ 妙の光 ひかり

10月、境内に桜の花がひそやかに咲き始める。葉が落ちた後、白い可憐な花が11月初旬に満開を迎え、冷たい風にゆれる。そして、冬の強風に傷ついたり散ったりしながら、次の春に新しい葉が出てくるまで咲き続ける。

日蓮聖人は弘安5年(1282)10月13日、現東京大田区の池上宗仲公の館で亡くなられた。そのとき、時ならずして庭の桜が一斉に咲き、天地も聖人の死を悲しまれたと伝わる。以来「お会式」と呼ぶ各お寺でのご命日の法要には、造花で桜を飾る習わしになっている。

この桜は「冬桜」という種類で、妙光寺では本物の桜がお会式を彩る。世間では散り落ちたこの花びらを拾って帰ると、恋が成就するという話もあるらしい。新たに木を増やしたので、いくらかでも拾えるようになってしまったが。

咲きつづくほかなき白々冬桜 山田弘子

行事案内

秋のお彼岸中日法要

9月22日(土・祝)

午前10時半……安穩廟法要
(終了後、本堂にお参り下さい)
11時……彼岸会中日法要
12時……おとき
午後1時……住職の法話
※どなたでも、静かにゆっくりとお参りいただけます。
おときは、当日受付でお申込み下さい。

えしき お会式と第11回法号授与式

10月28日(日)

午前9時……法号授与者研修
11時……お会式、法号授与式
12時……おとき
午後1時……法話、特別記念講演
※詳細は別紙ご案内をご覧ください。

秋の一日研修

11月18日(日)

午前9時～午後3時
※詳細は8ページをご覧ください。

総供養会

12月9日(日)

今年、年回忌に当たっていても、都合で法事ができなかった方のために、檀徒・安穩会員を問わず、合同で法事を行います。

午後1時……受付開始
2時……法要
3時……銘々で墓参り

費用

- 塔婆1本2千円(1霊位1本)
- お供物共通費2千円
- お布施

持物

- お位牌
- 墓参り用の花、線香、口ウソク

※平服で構いません。

月例信行会

10月7日・11月4日・12月2日

毎月第1日曜日 朝7時～9時
会費/千円(各自さい銭箱へお願いします)
※予約不要。当日お寺へお越しください。お参り、法話、作務、朝粥の朝食やコーヒータイムがあります。

ボランティア

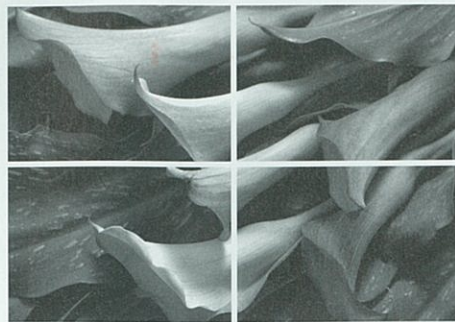
毎月15日

午前9時～11時30分 午後1時～3時
境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越しください。昼食はご持参願います。



あ と が き

今号は、8月25日に行われた「送り盆」の特集を載せました。また、御前様の巻頭随筆も「安穩」と名付けて新たなスタートをきり、新コーナー「教えて、お上人」も始まりました。「教えて」コーナーでは、あらゆる疑問にお答えする予定です。皆さんにお寺の様子がお伝えできるように、これからも頑張ります。よろしくお願ひ致します。(新倉理恵子)



還 曆 小川英爾

久しぶりの一献

「ちょうど良かった。御前様！冷や酒か、それとも爛にするか？」ある日の夕方、用があつて近所の檀徒のお宅を訪ねたら、すぐに爺ちゃんに声をかけられました。88歳の爺ちゃんと60代の息子さんの二人暮らしなので、夕飯時は避けて訪問したのです。しかし遠慮もできず「じゃ、その焼酎をお湯割りでもらうよ。」「おう、それが一番楽だな。」用件を早々に済ませると、父子の夕飯のおかずをつまみに、男3人で酒盛りが始まりました。

数か月前に家族から米寿のお祝いをしてもらったことも忘れた爺ちゃんが「御前様とゆっくり飲むのも久しぶりだ、嬉しいな」と言ってくれました。住職歴も38年になるので、これまで手伝ってもらったお寺の行事や水害に遭ったことなど、共通の思い出話がたくさんあります。不思議なことに、私以上に爺ちゃんの記憶がしっかりしていて驚いたり、そこまで思っていてくれたのかと感激したり、楽しい酒でした。

伝えきれない

以前はこうして、何かにつけ酒を

飲む機会が多くありました。最近では農業をやめて勤め人になる人が多く、時間の制約もあり、私も忙しくなるとそんな機会も限られています。それに今月還暦を迎えて、以前のように体の無理がききません。

先日、55歳で亡くなられたご主人の埋葬に東京から来られた女性がいました。「夫の両親が勝手に決めたお墓で、しかも遠くて、ここでもいいのか1年間迷いました。でもこうしてご住職のお話をじっくり聞いて納得できました。もっと早くにお話しできていれば、こんなに悩まなくてよかったですね」と、帰って行かれました。軒数が増えた分、皆さんとの心の距離が遠くなったようで、心苦しく思うことがたびたびあります。

もう少し頑張ります

そんな距離を少しでも縮めたい、そう願って苦心しているのがこの『妙の光』です。毎月発行するお寺もありますが、妙光寺では手間と経費から、現状の年4回発行が精一杯です。毎回感想を送ってくださる方もいれば、お知らせしたことを全く知らない方もときにはおられます。どうした

らもつと伝えられるか、いつも悩んでいます。嬉しいことに最近編集、デザイン、発送と、大勢の方々の協力がいただけるようになって、肩の力が抜けた感じです。

今回から、平成3年の復刊以来続けてきた、「あんのんのページ」をなくしました。安穩会員も檀信徒も、知りたい内容は一緒のようです。もっと基本的なことが知りたいとの声に聴えたいと考えたのです。皆さんが知りたいであろうこと、お寺がお知らせしたいことはたくさんあるのですが、文字が多くては読んでいただけられない、工事も同時にあります。これからは、工夫していきたいと思っています。

「住職定年の歳」と心に決めていた還暦を迎えましたが、準備が整いませんでした。さらに来年は妙光寺開創700年の大行事を皆さんと一緒に催させていただくことが決まりました。年相応に力を抜いて、その分をお手伝いくださる方々に甘えて、もう少し頑張ることにしました。これからは親しくお付き合いをお願いします。



石田謙一さんは、本年新たに妙光寺の世話人に加わって頂いた。奥様の愛子さんも毎月の信行会、春秋の研修会に参加している。しかし、ここまでの二人の道のりは決して平坦ではなかった。

妙光寺の古くからの檀徒である石田家の分家に産まれた謙一さんは、父・金衛さんが新潟市窪田町に創業した自宅兼鉄工所で育った。高校を出てすぐ父の経営する鉄工所に勤めたが、その頃の父はよく働くがお酒もよく飲んで母に苦勞をかけている印象が強く、わだかまりが拭えなかったという。努力家の謙一さんは、専門の知識を独学で学び、人の技を盗んで技術を磨いた。24歳の時、社長である父・金衛さんが脳梗塞で突然倒れた。半人前の謙一さんだが、会社も借金を抱え、従業員も雇っている。一命は取り留めたが後遺症が残る父と家族もいる。引くに引けない思いで会社を引き継いだ。そして、工作機械の生産から、大企業への部品納入へと方向を変えながら、懸命に操業した。

31歳の時、知り合いの紹介で愛子さんと結婚。愛子さんのご家族は、謙一さんの抱えている事情をととも心配をしたという。しかし愛子さんは、謙一さんと共に働き、家族と会社を支えた。納期が近くなると家族が一丸となって夜通し働いた。会社の経営が苦しくなると、今度は社員が謙一さんを支えてくれた。

「本当に周りが支えてくれました。妻も家族も社員もいろんな方が。そのように思えること、今口にして言えることが幸せです。」と語る謙一さんだが、2年前に遂に決断のときが訪れた。

「会社の借金もなくなり今が潮時だと思いい、幕引きできるように道筋をたてまし

た。社員には事情を説明して辞めてもらい、今は私一人で細々とやっています。なぜだか、父が創業した会社の幕引きをするのが、役目だと思っていました。」という。元社員たちとは先日も納涼会を開き、今でも交流している。

「父が倒れたときは、無我夢中でした。若くして住職になられた御前様も似たような境遇だったでしょう。親近感が湧きます。今思えば、あの時倒れたのが、父の優しさだったかもしれない。会社を任されたことで、創業し運営していく父の苦悩がわかるようになりました。数え年83歳まで生きた父は、晩年3年間は寝たきりとなりました。家族の助けを借り、私が下の世話もしながら、自宅で介護しました。そのことが若い頃、母を悩ませた父へのわだかまりを消し、逆に父をいとおしく感じられました。本当に大切な時間を頂きました。」と語る。

昼夜問わずに、働き続けてきた石田さんご夫婦。少しだけ時間が持てるようになったので、昨年の身延団参に参加しお寺にも頻繁に足を運ぶようになった。これからは二人でいろんな所へ出かけてみたいという。『思い続けていれば、実現する』最後に力強く語られた言葉に、ご夫婦で苦難の道のりを越えてきた強い信頼を感じた。(取材・構成 永石光陽)

信心

父から受け継いで

新潟市西区

石田謙一さん(62歳) 愛子さん(60歳)

百灯のおかり

—妙光寺の送

特集

住

職

と

ト

ー

トク①

下元敬道さん × 小川住職
(葬儀サポートセンター代表)

いま、若い世代がみつめる葬儀

住職 葬儀サポートセンターという、良心的な葬儀社を紹介する仕事^レをしているのですが、なぜその若さでそういう仕事をすることになったんですか？

下元 私はセンターを26歳で立ち上げて、今36歳になりました。もともとはインターネットの広告代理店に勤務していて、インターネットの専門家なのです。起業するとき、インターネットを通じて本場に必要情報を必要としている人に届ける仕事をしたい、と考えました。実は、広告代理店の経験で、一番問題を感じていたのが葬儀業界でした。家族を亡くして



ショックを受けている人に、病院の霊安室で営業して、親切そうにご遺体を預かって、後で高額な請求をする。納得のいかないまま家族の葬儀が終わっている。そういう例を見聞きして、この

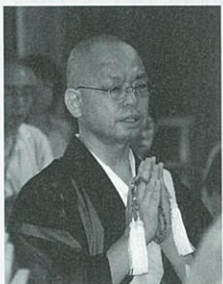
仕事を始めました。

今は、我々なりの基準で選んだ、自分の親の葬儀を頼める葬儀社さんを、相談者さんに紹介する仕事をしています。相談者さんに紹介料はかかりません。葬儀社から手数料を頂く

トク②

平山英徹さん × 小
(新聞記者)

僕が妙光寺で得度しよ



(師匠と弟子のめにくいという「妙の光」編集りました。当師僧である小川頂いて「平山」になりました。)

新倉 そもそも52歳で、なぜ得度しようか？

平山 二十年ほど前にお墓の連載を書いたのが、妙光寺に来た最初でした。もに御前様と長いお付き合いになりました。取つて数年前から後輩の記事を直す仕事に出ることがなくなり、一日中社内になりました。それで休日には外に出ようと、おめしました。たまたま日蓮宗のお寺で「無妙法蓮華経」の文字の美しさに感激、後、御前様から日蓮宗に、千ヶ寺参り、

あることを教えられ、では挑戦しようとお寺のご朱印を集めました。そしてあら「もし平山君が僧侶になる気があるよてるかどうか」と言われ、思わず「お願

万灯のあかり

— 妙光寺の送り盆 —

第23回フェスティバル安穩 8月25日(土)

毎年恒例の夏のフェスティバルが、「妙光寺の送り盆」と名称を変えて3年目。今年は会場を境内から岩屋にまで広げ、さらに盛り沢山な内容となりました。



メッセージ灯笼の並ぶ参道



色鮮やかな「千提灯」
その下で会話もはずみます。



「夜の交流会」
恒例、安穩甚句と踊りの輪!



厳粛な中での「得度式」

新聞記者の平山徹さんが、僧侶・平山英徹として新たな一歩を踏み出します。



昔懐かしい「街頭紙芝居」

現存する数少ない肉筆画の紙芝居です。



「住職とトーク」

3人のゲストが、葬儀・宗教・人生などを本音で語りました。



「祈りの響きコンサート」

岩屋に響く笛の音は美しく、まさに幽玄の世界。感動の声がたくさん聞かれました。



「バザール広場」

仏具から手作り小物、出張写真館、喫茶…。いろんなお店が並びます。



「エンディングノート」の書き方講座

部屋に入り切れないほどの人でした。



「万灯のあかり」

メッセージ灯笼と、墓地を埋める幻想的なろうそくの灯り。夜空に浮かんだ月も、心に沁みました。



「再会の祈り」

最後は東屋から墓地に響く読経。皆心穏やかに再会を約す…。



「体験コーナー」

「蓮の花飾り」や「手作りおもちゃ」は子どもたちにも大人気!



『法号授与式』 10月28日(日)午前9時集合

戒名は仏様のお弟子になった証ですから、生前につけるのが本来です。戒名をいただいで、その後の人生を戒めるという意味があります。日蓮宗では法号といえます。

妙光寺では毎年「お会式」に合わせ、『法号授与式』を行っています。お名前と法号を金糸で刺繍した略式の袈裟と、数珠の記念品が付きます。費用は3万円です。

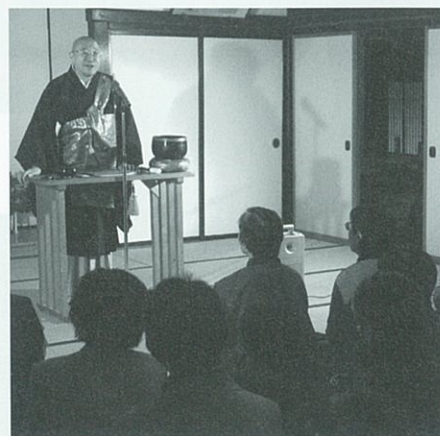
生前戒名をご希望の方は電話、ファックス、ハガキ等でお問い合わせください。折り返し詳しい説明書をお送りいたします。申込受付締切 10月8日(月)



お会式と特別講演 10月28日(日)午前11時

日蓮聖人のご命日の法要を「お会式」といいます。今年は県内お二人のご住職の法話と、特別講演があり、盛りだくさんです。

昨年の東日本大震災の被災地では、多くの方々が未だ復興もままならず、悲しみを抱えた日々を過ごしています。その悲しみに、震災直後から寄り添った新聞記者が特別講演で語ります。詳しくは別紙案内書をご覧ください。



秋の一日研修 11月18日(日)午前9時~午後3時

お寺のこと、お経の意味、お参りの作法などを学ぶ日帰り研修です。堅苦しいことは、一切ありません。お一人でも気軽に参加ください。以前に参加された方には、更なるコースがあります。

費用は昼食付で4千円です。11月10日(土)までにお申し込みください。



開催決定

『開創七百年身延山700人大法要』

かねてよりご案内の、妙光寺開創七百年を記念する身延山での『700人大法要』は、おかげさまで550名のお申し込みを頂き、開催を決定いたしました。

引き続き、定員までは申込みを受付けます。今後の詳細は、別紙をご覧ください。



紙上法話 小川英爾

紙上法話

たとへ何処にて死に候とも、墓とば身延の山にたてさせ給え。 (日蓮聖人ご遺文) 未来際までも心は身延の山に住むべく候

霊山「身延」

来年3月、妙光寺開創七百年法要を催させていただきます身延山久遠寺(山梨県)は、日蓮聖人ご自身がお墓を建てて欲しいと言い遺された、日蓮宗の総本山です。亡くなられた後も、未来にわたり日蓮聖人の心が住み続ける所と言われています。

日蓮聖人は鎌倉幕府に対し、お釈迦様の教えの根幹である『法華経』によって国を治めるよう進言されたことで、佐渡ヶ島流罪など幾多の難に遭われました。そして「三度諫めて用いられずば去れ」との中国の故事にない、鎌倉を離れます。60年のご生涯で、52歳からの9年間を心安らかに過ごされた地が、身延山でした。熱心な信者であった領主の波木井公がお迎えし、日蓮聖人は鷹取山の麓を草庵の地に選ばれたのです。

といっても世に言う隠棲とは違い、これまで以上に弟子や信徒の育成に力を注がれました。「お釈迦様が『法華経』を説かれたインドの霊鷲山に似たようだ。また中国の隋の時代、國師と仰がれた天台大師が、その『法華経』を解説された天台山にも似ている。私自身はお釈迦様でも天台大師でもないが、昼夜に『法華経』を読み、天台大師の教えを弟子に語り、ここは霊鷲山のようにあり、天台山と同じところと言える。」

これほどまでに身延山は霊山だと讃えられています。「それは『法華経』の行者日蓮が多くの日を送り、心の底から読み込んだ『法華経』のご利益が積み積もっているからだ」とも。

厳しい自然

しかし、精神的に安住できる地ではあっても、

山深い沢筋の地形です。日当たりも悪く、冬の寒さは尋常ではなかった様子が書き記されています。各地の信者から供養された食糧はあっても、大勢の弟子や信者たちですべて分け合っているのですから、その食事は相当に粗末でした。

日蓮聖人は、9年の間に数度の病に伏せられ、徐々に衰弱していきました。そして周囲の熱心な勧めで、60歳の9月に常陸の湯(現水戸市加倉井)に湯治に向かわれました。しかし途中、現東京大田区池上の池上宗仲公のお屋敷に休まれた後、臥せてしまわれ、弘安5年(1282)10月13日にお亡くなりになりました。ここが今の池上本門寺であり、大坊本行寺です。

精神息づく地で

池上で火葬された遺骨が身延山に移され、四十九日忌に当たる12月2日、葬儀が行われました。やがてお墓が建てられ、お守りする弟子が決められ、堂宇の整備が進められてきたのです。深い山を切り開いての工事は難工事だったことが偲ばれます。またこれまでしばしば火災にも遭い、そのたびに復興を繰り返してきました。

来年の妙光寺開創七百年大法要のため、特別に開放していただく大本堂は、日蓮聖人七百年遠忌を記念して昭和56年に建立されました。間口32m、奥行43mと壮大です。天井の龍の絵は、加山又造画伯が16m四方に墨と金箔で描かれたもので、圧倒される迫力があります。

妙光寺が700年目に当たる来年は、日蓮聖人滅後731年目です。今に伝わるその気概と精神を、その霊気とともにぜひ体感してください。



寺庭から

「ハローくん」小川なぎさ

夏の最後の行事「送り盆」が終わりました。夜の暗闇の墓地に、たくさんの灯りが揺らめいている様子は、本当に静かで荘厳な、魂を送るにふさわしい光景でした。「また来年帰ってきてね!」と思わずにいら



思い浮かびませんが、遠い異国の地から来て、可愛がられて天寿をまっとうしたこと、お題目? を唱えていたこと、なにより、50年も一緒にいたことをご紹介したくて、写真もお借りました。ハローくんの冥福を祈ります。

の冥福を祈ります。

実はお恥ずかしいことですが、毎年夏になると忙しさのあまり心身ともにきつくて、「とほほ」という気持ちで暮らしていました。でも今年は、テレビである出版社の社長の「みんなが嫌だ、面倒だと思いをしてきた。あえて楽になることはやらない。」という含蓄のある言葉を聞いて、自分なりにやってみました。そして台湾出身の義姉の案内で、台湾のお寺のボランティアの方々に会い、「あなたのために何かをできることが私の喜びです。」という話も聞きました。そんなできごとが、自分自身をととても強くしてくれたようです。

疲れてはいますが、すがすがしい気持ちで夏を終えました。私は、気の持ちようでもまだなんとかなる年齢だということみたいです。

残暑きびしい秋になりそうですが、どうぞ本当に無理をせずお過ごしください。

暑い中行事のお手伝いを頂いた方、みなさんにお礼を申し上げます。

さて夏はお上人さんたちが、お盆の棚まいりにお伺いしてお世話になりました。

棚経といえはもうずいぶん前のことですが、住職から「ホーホケキョウ(法華経?)と鳴くオウムが、いるよ。」と聞いてお盆に連れて行ってもらったことがありました。大きくてきれいな鳥、ハローくんでした。そのハローくんが、昨年死んだとお聞きしました。飼い主のお母さんが隣で午後のお昼寝から目覚めたとき、さっきまで元気だったのに…と驚かれたそうです。ハローくんは大好きなおかあさんの顔を見ながら静かに逝ったのですね。

当時船員だったお兄さんから妹さんへの、南米のサントスからのお土産だったそうで、なんと50年も一緒に暮らしたそうです。連れてきたときはすでに何歳か分からなかったそうですから、人間と同じくらい長生きしたわけです。サントスの港がどこにあるのか

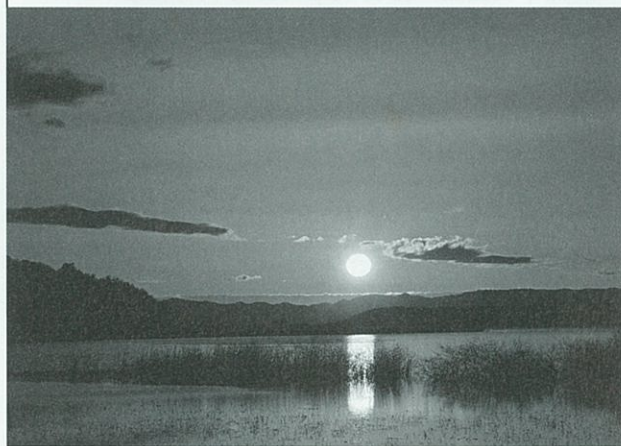
質問



お坊さんをどう呼ばいいの?

先日、妙光寺に行った時、「ご住職」と呼ぶ人や「御前様」と呼ぶ人がいて、どう呼びたらいいのかわからなくなりました。お坊さんの呼び方を教えてください。

一般的にお寺の代表である僧侶のことを「ご住職」と呼びます。複数の僧侶がいるお寺でも、「ご住職」と呼ばれる方は一人だけです。これは宗派を問わず、どこのお寺でも一般的に使う呼び方です。ただし、本山のように大きなお寺ではそれぞれに呼び方があって、立場は住職ですが「ご住職」とはいけません。ちなみに身延山久遠寺では「法主」、普通の本山では「貫首」等です。「御前様」は、高位、高僧を表す尊称です。日蓮宗では昔からの慣わしで、本山ではないけれど一定の格式のあるお寺の住職や、高齢の僧侶を呼ぶ時の敬称として使います。映画「男はつらいよ」に「寅さん」の菩提寺として出てくる葛飾柴又の題経



寺は、日蓮宗なので住職が「御前様」とよばれているのはご存じのとおりです。妙光寺も歴史的にこうした格式の寺として、古くから住職のことを「御前様」と呼んできました。現小川住職も22歳で入寺して以来このように呼ばれ、「居心地が悪かった」と若

いころを思い出すそうです。なかには「御前さん」と呼ばれる檀徒の方もあって、呼ばれる側も親しみがあつてうれしいとも聞きます。一般的に僧侶の呼び方はいろいろあり、宗派によっても異なります。日蓮宗では、僧侶のことを「上人」と呼びます。仏道を修行し、知恵と徳を兼ね備えたという意味の僧侶の敬称です。住職以外の僧侶のことを呼ぶ時には、「お上人」と呼ぶのが普通です。特に高徳な僧侶をさす場合には「聖人」とも表します。日蓮宗では、「日蓮聖人」のことを「聖人」と用いて表します。また「お祖師さま」と親しみ尊んでお呼びすることもあります。(永石光陽 記)



僧侶の呼び方